

## 知ることから始めて

副会長の仕事は、就任の挨拶回りに始まる。初日の午後のメインは、最高裁判所の裁判官への挨拶だ。

私は、弁護士会の用意したタクシーで、最高裁判所へと向かい、14人の裁判官室をそれぞれ訪問した。

2日後、今度は関東弁護士会連合会の常務理事としての挨拶回りがあった。

そう、東京弁護士会の副会長のうちの1人は、関東弁護士会連合会の常務理事を兼任することになっている。本年度は、私がそれだ。

私は、関東弁護士会連合会が用意したハイヤーで、再び最高裁判所へと向かった。

あれ、今日は正面玄関からだ。おとといは、いってみれば裏口からだった。

どうしてだろう。今日は黒塗りのハイヤーだからだろうか。そんなはずはない。

そうか、おそらく黒崎さんだ。初日は黒崎さんが一緒だったんだ。黒崎さんは本年度の監事だ。学生の時の事故が原因で、車椅子を使っている。

最高裁判所の正面玄関からは、車椅子では入れないんだ。

副会長の毎日は、それなりに忙しい。

大量にある決裁の書類に目をおし、担当の委員会に出席していると、あっという間に1日の大半が終わっている。理事会や常議員会の準備もある。

4月も終わるころ、新任の理事者を対象とした、弁護士会館の見学会があった。

その時、1階受付の脇に「この施設は障害者等の方々にも利用しやすいように配慮されています。千代田区」という小さな看板を見つけた。

そこで、案内してくれた防災センターの職員に、以

副会長 海野 浩之 (45期)

主な担当業務  
民事介入暴力対策、骨髄、弁護士倫理、法制、非弁取締、非弁提携、医療、税務、紛議調停、市民窓口、運動会、法律相談センター、リーガルアクセスセンター、消費者、外国人、合同図書館等



前から気になっていた、多目的トイレの数を聞いてみた。各弁護士会の受付があるフロアにあるはずだということだった。

5月は、高松で日弁連の総会があり、当会の総会もあった。

私は、その合間を縫って、各フロアに行って調べてみた。

多目的トイレは、17、14、13、8、7、5、3、2、1、B1の各フロアに1室づつあった。

そこまでしてみて気がついた。そうか、わざわざ歩き回って調べる必要なんかなかったんだ。これだけの建物だもの、どこかに表示があるはずだ。

表示はあった、1階の正面受付と、反対側の裁判所側に1つづつ。でも、内容が正しくない。多目的トイレがあると表示された階は、14、13、8、7、5、3、2、1だ。

私は、選挙公報に「市民と弁護士会のつながりが大切だ」と書いた。しばしば「ダイバーシティ」という言葉も口にする。

でも、弁護士会館の非常用食料が役職員の数を525人として備蓄されていることは知っていても、車椅子を使っている役職員がどれくらいいるかまでは知らない。まして、来館者となればなおさらだ。

だから、多目的トイレの数が足りているのかもわからない。つまり、そういうことだ。

この原稿を書いているのは、6月の半ばだ。

私は、相変わらず、決裁の書類に目をおし、担当の委員会に出席し、理事会の準備をしている。

そして考えている。知ることから始めて、どこまで届くだろう。